



第18回さくら病院祭

毎年、7月下旬頃に「さくら納涼祭」として患者様、ご家族様に親しまれてきましたが、近年の猛暑や豪雨の影響を考慮し、今年は気温が落ち着く初秋に合わせ10月3日（水）に「さくら病院祭」として開催致しました。

また、ゲーム等の会場も外来ホールに集中し混雑していましたが、病棟内に会場を移すなど、余裕のある空間の中で楽しんでいただく事を心がけて行いました。

当日は気温も24度と過ごしやすく、外来ホールでは「昭和に触れる」コーナーを設け、レコードや日用品等の展示を行い、古き良き時代を懐かしんで頂きました。第2・3病棟ではボール転がし、ヨーヨー釣り等のゲームを楽しみ、第1病棟の食堂では綿菓子や飲み物などで喉を潤していました。

主会場では各病棟で患者様・職員が協力して作成した小千谷市をイメージした「風船と錦鯉」の作品が紹介され事前投票数と当日による投票数を合算した病棟対抗戦が賑やかに行われた他、小林様によるピアノ演奏があり、参加者と一緒に「リンゴの唄」「ふるさと」を合唱し、楽しい一時を過ごしました。

例年ですと気温が30度を超える中で、参加者からは「暑い」と言う声が聴かれましたが、今年は過ごしやすい状況での開催となり、たくさんの参加を頂き無事に終了することが出来ましたことを皆様に厚く感謝申し上げます。

さくら病院祭実行委員長（事務長） 中山 克成



小千谷さくら病院の理念

自分なり家族や友人が利用したい病院づくり

作業療法士の取り組み ～ 畑での作業を通じて ～

患者様が希望される活動の中でも、畑仕事は特に人気があります。今回はナスとシシトウと一緒に植えて育てました。今年は酷暑で雨も少なかったため、なかなか患者様と水やりや観察に行くことができませんでした。そんな環境でも野菜はしっかり実っており、涼しくなってからいよいよ収穫です。患者様の状態に合わせて、立ったり屈んだり、ハサミを使ったり指先でもいったりして収穫しました。ナスは水不足が影響してか、「艶がないね」、シシトウは「あっちにもこっちにもたくさんなってるね」など声が挙がっていました。野菜を優しく洗う手つきをみていると、たくさん家事をこなしてきた手だなあと感心させられました。来年も患者様の希望を聞きながら活動をしてきたいと思います。

作業療法士 武樋 由紀子



初夏、作業療法室ではサロンで畑周囲の草取りを行いました。メンバーは3名。麦わら帽子を被って、手袋・足カバーを身に付けて、汚れてもよいズボンをはいて、さあ！準備万端！このメンバー3名は、膝の痛みがあったり、足の痺れがあったり、眩暈があったり・・・普段は様々な訴えがある方ですが・・・草取りでは、まあ積極的！車椅子から立ち上がり立位で始める方、膝をついて四つ這いで始める方、台に腰かけて始める方、みなさん手が止まらず、本当に一生懸命行って下さいました。草取りしている間は不思議なことに不調の訴えが聞かれないんです。「気分がいいねえ」「もう終わり？まだやりたい」等、ポジティブな発言が増え、作業の力を改めて感じています。草取り後はみんなでお茶を飲んで帰りました。楽しい時間でした。

作業療法士 星野 菜央

食事前のラジオ体操♪

2病棟では昼食前レクにラジオ体操や歌・口の体操など行っています。

ラジオ体操では昔なじみの曲と言うこともあり音楽に合わせて体を動かす姿が見られました。歌も分かる歌だと声を出す方や小声ながらも口ずさむ方もいました。

口の体操では季節に合わせたイラストカードの読み上げ等で口を動かしています。野菜や果物のイラストだと分かる方が沢山いて患者様の反応が凄く良かったです。

今後も継続していきたいと思います。

2病棟 介護福祉士 橋本 真津美



中庭を利用した菜園づくり

3病棟では、中央の中庭にあるスペースを活用して菜園を作り、毎年様々な野菜や果物を育てています。基本的には農作業に詳しいスタッフを中心に野菜・果物作りを行っていますが、日々患者様と一緒に野菜や果物を観察し、成長の過程を楽しんでいます。収穫の時期になると、収穫祭と題して患者様に収穫をして頂き、提供することでレクリエーションの一環として大いに盛り上がるイベントとなっています。今年はスイカとメロンを2品種ずつと、さつまいもを植え、夏場にスイカとメロンを収穫してスイカ割りなどを楽しみました。

植物を育てることは単に食べる為だけでなく、成長が楽しめ、気分転換にもなることから「心と体を整える」効果があると言われていています。今後もこの3病棟独自の活動を、患者様・スタッフ共に楽しみながらリフレッシュできる取り組みとして続けていきたいです。

3病棟 介護福祉士 下村 健



8月7日にフットケア研修を開催しました。

みなさん、フットケアはご存知ですか？フットケアとは爪のお手入れはもちろん、皮膚のお手入れ、保湿などのスキンケアやマッサージ、皮膚病の治療などさまざまな視点から観察し、ケアしていく事です。特に高齢者は巻き爪の方が多く、悪化すると痛みで歩けなくなったり、転ぶ原因にもなります。

そのため研修では、フットケアの重要性や正しい爪きりの方法を実際に体験してもらいながら学びました。爪きりの基本は①ソングなど爪と皮膚のごみをかき出す。②切り方はスクエアオフカットで、爪の長さは指先と同じまたは1ミリくらい短く切る。③最後にやすりを一方向にかけます。この事が大切になってきます。

参加した職員からは、「普段のやり方より上手に切れた」、「明日から活かしたい」などの声が聞かれました。

足は身体を支える土台です。患者様の大切な足をフットケアで守り、患者様にとって『快適支援』に繋がっていきたいと思います。

2病棟 介護福祉士 西方 奈美子



外部講師による研修会の報告

相談部長 宮山 浩子

「福祉と人間観」—ちょっと立ち止まってかんがえてみよう—をテーマに観測史上最も暑かった7月に研修を開催しました。講師は敬和学園大学・青山良子教授に依頼しました。

当院では、院内研修・院外研修に比較的多くの職員が参加していますが、外部の講師依頼は、ずいぶん久しぶりでした。そのため、事前に当院の特色・年齢層・日頃の状況を直接会い説明し、お願いしたい内容を伝え、研修の準備をしました。



大まかには、企画の意図として

- ① 日頃、忘れがちで忘れてはならない倫理や接遇について学ぶ機会とする
- ② ①のことを現場で活かせる
- ③ 権利主張と責務を果たすために、そのバランスが取れる

とし、きちんとした倫理観をもち、患者・家族に対応できることを目標にしました。

先生は長岡看護福祉専門学校でも教鞭をとっていられたこともあり、また、福祉の専門家でもあられます。多様な層の職員にわかりやすく、また、教養が広がるような内容でお話し頂く事ができました。

ノーマライゼーションの観点から、価値観の問いなおしをし、人間として鍛えられるような、糸口を学ぶ機会になりました。

日々、人として、また、仕事をしていく上で、医療や福祉に従事するものとして、‘あるべき姿’・‘初心にかえる’等、役立つ内容のものでした。



終業後の研修ではありましたが、68名もの職員の参加でした。

今後も心に残り、役立っていけるような研修の企画をしていきたいと思えます。

中学生職場体験学習受入れ

初めは緊張していた様子でしたが、少しずつ笑顔もみられるようになりました。双子の姉妹という事もあり、患者様から話しかけられ、楽しそうに会話している姿が印象的でした。

2人とも看護師になりたいとのことで職場体験を通してその気持ちも強くなったと話してくれた事がとても嬉しかったです。

是非、夢を叶えてもらいたいと思えます。

1病棟 看護師 村山 ひとみ



編集後記

先月、小千谷市内で映画のロケを見学する機会に恵まれました。撮影日までの間、スタッフや地元関係者が現地を訪れ、入念に準備をして撮影に備えました。当日は、大勢のスタッフが地元エキストラの方々に細かな指示を出し、ボランティアも協力をしてリハーサルを重ね、主役等が入った「テスト」「本番」は一回でOKが出ました。

当院も多職種が協力をして、患者様により良い療養生活をおくって頂けるように取り組んでおります。(伊佐 記)



社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院

〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田2732番地
電話(代表) 0258-83-2680
FAX 0258-83-4416
URL <http://www.sakurahp.com>
E-mail info-01@sakurahp.com
広報委員 中山 克成・原 智史・篠田 由江
下村 健・小林 由華・伊佐 純子